

新型コロナウイルス感染症に係る医療提供体制のあり方を検討するため、専門家によるタスクフォースを立ち上げ、保健所とも意見交換を行い、宿泊療養／入院の振り分けの判断フロー等の検討を進めてきた。

1 座長：森村 尚登 氏（東京大学大学院医学系研究科 救急医学教室 教授） ※委員は「別紙」のとおり

## 2 検討の経緯

### 11/6 ■ 第1回タスクフォース会議

『新型コロナウイルス感染症患者の宿泊施設療養／入院 判断フロー（Ver.1）』の検討

11/11-13・16

- ・ 保健所との意見交換会の開催：31保健所

### 11/16 ■ 第2回タスクフォース会議

『新型コロナウイルス感染症患者の宿泊施設療養／入院 判断フロー（Ver.2）』の作成

- 11/17 ・ 保健所長と知事との情報交換会の開催
- ・ 医療機関向け説明会での説明：計2回・約100施設

### 11/25 ■ 第3回タスクフォース会議

よくある質問（FAQ）、自宅療養等の検討

## 新型コロナウイルス感染症の医療提供体制に関するタスクフォース

令和2年11月25日時点

役職等	氏名
日本体育大学大学院保健医療学研究科長・教授	横田 裕行
帝京大学医学部附属病院 病院長	坂本 哲也
杏林大学医学部 救急医学教室 主任教授	山口 芳裕
東京大学大学院医学系研究科 救急医学教授	◎ 森村 尚登
国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院 国際感染症センター長	大曲 貴夫
東京都立駒込病院 感染症科 部長	今村 顕史
日本赤十字社東京都支部 事務局長	中川原 米俊
東京消防庁 救急部 副参事（救急対策担当）	前田 透
東京都医師会 副会長	猪口 正孝
順天堂大学医学部附属練馬病院 救急・集中治療科 教授	杉田 学
東京北医療センター 管理者	宮崎 国久
東京曳舟病院 副院長	三浦 邦久
大田区保健所 感染症対策課長	高橋 千香
多摩立川保健所 保健対策課長	渡部 ゆう

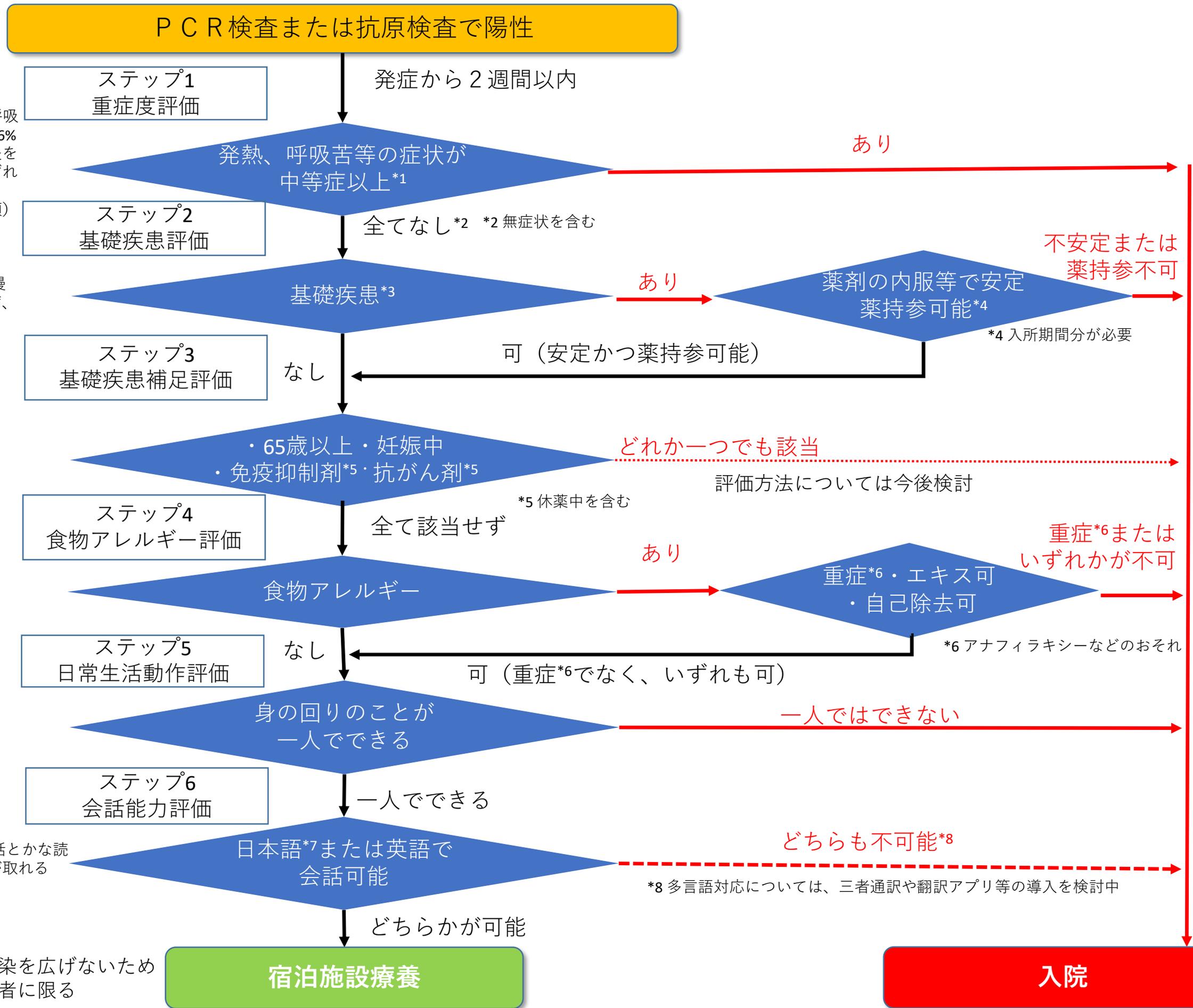
## &lt;オブザーバー&gt;

東京都医師会 理事	新井 悟
放送大学 教養学部 教授	奈良 由美子
東京大学医科学研究所 ヒトゲノム解析センター 公共政策研究分野 教授	武藤 香織
早稲田大学政治経済学術院 准教授	田中 幹人

◎：座長

※敬称略

# 新型コロナウイルス感染症患者の宿泊施設療養／入院 判断フロー (Ver2)



\*1 発熱 (38°C以上)、呼吸苦、全身倦怠感、SpO2 < 96% (測定可能な場合)、肺炎を疑う症状か検査所見のいずれかがある  
(参考: 別表の重症度分類)

\*3 糖尿病、心血管疾患、慢性呼吸器疾患、慢性腎臓病、高血圧、著しい肥満 (BMI ≥ 30) 等

\*5 休薬中を含む

\*6 アナフィラキシーなどのおそれ

\*8 多言語対応については、三者通訳や翻訳アプリ等の導入を検討中

宿泊療養は周囲に感染を広げないため留意点遵守が可能な者に限る

別表 重症度分類

症状の強さ (重症度)	発熱、咳、呼吸困難などの症状
重篤	顔色が明らかに悪い、唇が紫色になっている、(表情や外見等が)いつもと違う、様子がおかしい、息が荒くなった、急に息苦しくなった、日常生活で少し動いただけで息苦しい、胸の痛みがある、横になれない、座らないと息ができない、肩で息をしている、意識がおかしい、意識がない
重症	通常の日常生活動作に支障をきたしている、または常に咳がひどい、または痰が多い、または発熱が持続している、または経験したことのないひどい全身倦怠感がある、またはSpO2 ≤ 93% (測定可能な場合)
中等症	日常生活動作は可能であり、かつ発熱および咳・感冒様症状が常に持続している、または全身倦怠感がある、または93% < SpO2 < 96%
軽症	日常生活動作は可能であり、かつ発熱・咳・感冒様症状は軽い、または味覚障害がある、または鼻が詰まっていないのに嗅覚障害がある、または軽い全身倦怠感がある、またはSpO2 ≥ 96%

(「COVID-19症例に対する病院前緊急度・重症度判定基準Version 2 (東京都医師会救急委員会救急相談センター運用部会：2020.7.20)」および「COVID-19患者に対する緊急度・重症度判定基準Version 1 (一般社団法人日本臨床救急医学会・一般社団法人日本救急医学会：2020.5.12)」から引用、一部改変)